

令和6年度小学校教科教育推進研修（国語科）研修成果物（指導について）

指導者 Bグループ 府中町立府中東小学校 仲本 ゆうこ
指導学年 第1学年2組 27名

- 1 単元名及び教材名 じどう車くらべのたつ人になろう
「じどう車くらべ」（光村図書『こくご 一下 ともだち』）

2 児童観

本学級の児童は、1学期に「つぼみ」の学習において、初めて説明的な文章を読み、「問い」と「答え」の関係性を捉え、重要な語や文を見つける学習をした。文と挿絵が対応していることにも着目し、文の言葉と写真の様子を書き込んだり指さして説明したりすることができた。しかし、自分で花の本から好きな花を選び、「問い」の文と「答え」の文を書くことができた児童は5割で、さらに「～のような形をした」と、つぼみの特徴を写真から想起し、自分の言葉で表すことができた児童も5割であった。

また、「うみのかくれんぼ」の学習において、文章の冒頭に「問い」の文が書かれており、その後の段落で3つの事例について「答え」が書かれていることを学習した。「答え」では、何が・どこに・どのように隠れているのかが書かれているため、文章から大切な言葉を書き出して読むことができた。また、第1時に教師の範読を聞き、初発の感想をもつ時間を設け、初めて知ったことや、不思議に思ったことを書く活動を行った。初めて知ったことを書き表すことができた児童は7割であったが、自分の経験と結び付けて感想を書いた児童はいなかった。自分の考えを文章に書き表したり、経験と結び付けて感想をもったりする経験がさらに必要であると考え。

3 指導観

指導に当たっては、文章の内容の理解をもとに、考えの形成を行えるように単元を構成する。

内容の理解については、「考え聞かせ」を行い、児童に問いかけながら読むことで、「しごと」「つくり」「そのために」など、普段使い慣れていない言葉の意味を理解させる。また、挿絵や自動車の本の絵を指さしながら「つくり」を確かめることで、文章と想起された自分の知識や経験を結び付けることができるようにする。「しごと」と「つくり」の関係を捉えさせるために、ワークシートの中で「そのために」という語を用いて関係を示す。

考えの形成については、単元の冒頭で自動車クイズを出し、身の回りにはいろいろな自動車があることを紹介することで興味をもたせると共に、児童の「乗ったことがある・見たことがある」という経験を想起させて、単元に入ることができるようにする。その後、初発の感想をもつ活動を設定し、児童が持った不思議や初めて知ったこと、考えたことを書き留めておき、考えの形成で活かせるようにする。また、考え聞かせの時間や、自動車カードに「つくり」をまとめた際に児童が考えたり気づいたりしたことを、児童の言葉で挿絵に書き込んでまとめ、掲示することで考えの形成の手がかりに繋がるようにする。解釈の部分では、ワークシートを用いて①「仕事」と「つくり」②「自分の体験」③「前より分かったこと」④「感想」の枠を分けることで、児童が自分の言葉で書き表すことができるようにしていく。

4 指導と評価の計画（全 12 時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・ 評価方法 等
一	1 ・ 2	○学習の見通しをもつ。 ・「じどう車くらべ」の題名から、 どんなものが自動車なのか、クイ ズで確認する。 ・範読を聞き、初発の感想を書く。 ・初発の感想から、単元の学習計画 を立てる。				
	3 ・ 4 ・ 5	○教材文「じどう車くらべ」を読 み、文章構成を捉える。 ・「問い」と「答え」の関係を整理 する。 ・バスやじょうよう車の「しごと」 と「つくり」を読み取り、表に整 理する。 ・トラックの「しごと」と「つく り」を読み取り、表に整理する。 ・クレーン車の「しごと」と「つく り」を読み取り、表に整理する。		○		〔思考・判断・表現①〕 <u>ワークシート、発言</u> 「読むこと」において、文章の中 の重要な語や文を考えて選び出し ている。 ※ここでは、指導に生かす評価に 留め、記録に残す評価は第 10・ 11 時に行う。
二	6	○バス・乗用車・トラック・クレー ン車から 2 つを選び「しごと」 「つくり」の共通点・相違点をワ ークシートにまとめる。	○			〔知識・技能①〕 <u>ワークシート、発言</u> 共通、相違など情報と情報との関 係について理解している。
	7 本 時 ・ 8	○自動車について、児童の見たこと があることや知っていることなど の経験と結び付けて解釈し、感想 をもつ。 ○自動車カードを読み合う。		○		〔思考・判断・表現②〕 <u>ワークシート</u> 「読むこと」において、文章の内 容と自分の体験を結び付けて、感 想をもっている。
三	9 ・ 10	○乗り物に関する本を読み、じどう 車カードにまとめる。 ・自分が調べたい乗り物を決め、本 を使って調べる。 ・調べたことを「しごと」と「つく り」に分けて、ワークシートにま とめる。		○		〔思考・判断・表現①〕 <u>ワークシート</u> 「読むこと」において、文章の中 の重要な語や文を考えて選び出し ている。
	11	○自分が調べた自動車について、児 童が乗ったことのある車や知って いることなどの経験と結び付けて 解釈し、感想をもつ。 ○自動車カードを読み合い、交流す る。			○	〔主体的に学習に取り組む態度①〕 <u>児童の様子</u> 粘り強く、文章の内容と自分の体 験を結び付けて、自分の考えや感 想を自動車カードにまとめようと している。
	12	○学習を振り返る。				

5 本時の学習（7／12 時間目）

（1）本時の目標

自分が選んだ自動車の「しごと」や「つくり」と自分の体験や知識を結び付けて考え、理解を深めたことや自分の感想を表現することができる。

（2）学習の展開

学習活動	○指導上の留意点 □主な発問 ・予想される児童の反応 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
1 見通しをもつ。	□前の時間に、自動車の「しごと」と「つくり」をワークシートにまとめて、同じところ・違うところをたくさん見つけましたね。どんなことが見つかりましたか。 ・バスとトラックでは、タイヤがあることは同じだけど、数が違いました。 ・乗用車とバスは仕事と同じだけど、座席の数がバスの方が多かったです。 □先生も、教科書の自動車を比べてみて、気づいたことをまとめてみました。 ○感想を含めた教師の自動車カードを提示する。	
2 めあてをつかむ。		
じぶんの たいけんや まえよりわかったことをいれて かんそうをかこう。		
3 じどう車カードのまとめ方を確認する。	□先生が書いた自動車カードには、たくさん文や言葉が書かれていますね。4つに分けて考えました。 1つ目は、仕事とそのためのつくり 2つ目は、自分の体験 3つ目は、前より分かったこと 4つ目は、感想です。 ○「自分の体験」とは、知っていること・乗ったこと・見たこと・聞いたこと・感じたことなどであることを伝えて、イメージを持ちやすくする。 ○項目ごとに分けて読み、段階を踏んで書いていくことで、文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想を表現することができることを捉えさせる。	

4 教材文の4つの自動車の中から1つ選び自動車カードにまとめる。 ①「仕事」と「つくり」 ②「自分の体験」 ③「前より分かったこと」 ④「感想」 5 本時の振り返りをし、次時の活動を知る。	○項目ごとに分けて読み、段階を踏んで書いていくことで、文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想を表現することができることを捉えさせる。 □自分が見たり乗ったりしたことのあるじどう車はどれでしょう。そのじどう車についてしょうかいカードをつくっていきましょう。 □選んだ自動車はどのような「しごと」と「つくり」をしていましたか。ワークシートにまとめましょう。 ○「しごと」と「つくり」は前時までのワークシートをもとにして考えられるようにする。 ◆これまで学習したワークシートを活用して、自動車カードが作成できるように枠を作る。 □自分が見たり乗ったりした時のことを書きましょう。その時に、その自動車の「仕事」や「つくり」に書いてある言葉を使いましょう。 ○教材文に結び付けて書くことができるように、文章の中の言葉を使うようにする。 □教科書を読んで、前より分かったことを書きましょう。 ○初発の感想を活かせる場合は、声をかける。 □最後に、考えたことやこれからのことなど感想を書きましょう。 ○文末を「～してみたいです。」や「～だとおもいました。」という表現を使うように促す。 ○本時で考えたことを振り返り、次時では、完成した自動車カードを読み合うことを伝える。	〔思考・判断・表現②〕 ワークシート 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験を結び付けて、感想をもっている。
--	---	---

(3) 板書計画

(電子黒板) 教師の自動車カード	④ かんそう 「うだとおもいました。」 「うしてみたいです。」 ③ まえよりわかったこと ② じぶんのたいけん 見たり、のったりしたときのこと ① 「しごと」と「つくり」	クレーン車 挿絵 本文	トラック 挿絵 本文	バス・乗用車 挿絵 本文	めあて じぶんのたいけんや、まえよりわかったことをいれて、かんそうをかこう。
--------------------------------	---	----------------------------	---------------------------	-----------------------------	--

6 指導の実際

(1) 指導上の工夫



「じどう車くらべ」という題から、「じどう車」とは、どんなものを共通認識できるようなクイズや、デジタル教科書に組み込まれていた自動車クイズで「仕事」とそのための「仕組み」がわかるクイズを単元の最初に行った。



電子黒板でデジタル教科書を提示し、挿絵を拡大したり、線を引いたり書き込んだりしながら、内容の読み取りを行った。

みんなの ふしぎ・もっとしりたい！

- ・バスの大きさが車とはちがうのはどうしてなのかな？
- ・クレーン車がひもみたいなものでおもたいものをこべるから、ふしぎだな。
- ・どうしてクレーン車にフックが2つあるのかな。
- ・はじめて見るじどう車があったから、もっとくわしくしたいな。
- ・トラックは、にだいになんキロのせられるのかしりたいな。

初めて範読をした際、

- ① 「初めて知ったこと・すごいと思ったことなど」
- ② 「不思議・もっと知りたいと思ったこと」

の2観点について感想を書くことを伝え、児童の調べてみたいという気持ちを共有し、「自動車比べの達人になろう」「自動車カードをつくろう」という単元のゴールを決めた。

バス	トラック	
とはこぶし 人をのせて	とはこぶし にもつを	しんや
まどがある タイヤ四本 にだいがたい うんてんせき まどが大きい たかい	まどがある タイヤ六本 いがある おもいにもつをのせるにだ うんてんせき ろいにだ うんてんせきのほかは、ひ	つくり

教材文から読み取ったことを表に書き抜いたり、自分の言葉でまとめたりし、その表から2つの自動車の共通点（赤）・相違点（青）を見つけて色で分けた。

(2) 児童のつまずきと実際に講じた手立ての具体

① 言葉の理解

「座席」や「荷台」などの普段使わない言葉や、「広い」「大きい」「多い」の言葉の意味の違いなどを理解していない児童もいるため、写真を示して書き込んだり、動作を入れて説明し合ったりする活動をその都度行った。

② 自分の体験と結び付けて「つくり」について調べるのが難しい児童

本で調べると情報が多く、自分が知っていることや体験と結び付けて情報を選ぶのが難しい児童が多くいた。そのため、必要な情報があると思う本のページを選ばせて、それを印刷したものを持たせ、知っていることと初めて知ったことを分けて線や丸で囲むなどして区別をつけられるようにした。その後、知っていることにつながる新たな情報を見付けさせて、自動車カードに書く内容を決定した。

③ 自分の体験を、書きたい内容に沿って想起し、書き表すことが難しい児童

「自分の体験」を書くとなると、思い出したことを羅列したり、その自動車の仕事とつくりとつながらない内容になったりする児童がいた。そのため、教材文に出ていた「つくり」の中から窓・座席・タイヤ・荷台・脚・腕の視点を挙げて、思い出すことを焦点化して書かせるようにした。

7 評価の実際

(1) 評価の具体

「おおむね満足できる」状況 (B)

選んだ自動車の「仕事とつくり」についての記述と、「自分の体験」、「前より分かったこと」、「感想」を関連させて記述している児童を「おおむね満足できる」状況 (B) とした。

クレーン車				
感想	前より分かったこと	自分の体験	つくり	仕事
一どでもいいからのつて みたいし、大人になったら うんてんもしてみたいで す。クレーン車についてい るひもの先のひっかけると ころについてもしりたいで す。	まえよりわかったこと は、さいしよはわからな かったけど、クレーン車に にもつをつり上げるじよう ぶなひもがついていること をしりました。	わたしは、おかいものを したときのかえりみちに、 クレーン車を見ました。う でがのびたときに、「かっ た。こいいなあ」とおもいま した。	そのために、じようぶな うでが、のびたりちんだ りするようにつくってあり ます。	クレーン車は、おもいもの をつり上げるしことをし ています。

「うで」からさらに関心を
広げて調べてみたいことを
記述している。

「うで」だけが丈夫にできている
のではなく。「ひも」も丈夫であ
ることについて記述している。

「十分満足できる」状況 (A)

- ① 教材文にある「しごと」と「つくり」に関連しており、新たに自分の体験から見つけたことについて考えたり、調べたりして分かったことを記述している。
- ② 前より分かったことについて、体験を交えて具体的に記述することができている
- ③ さらに調べてみたいことについて感想を記述している。

バス		
感想	前より分かったこと	自分の体験
バスにまたのつて、つかむとこ ろをつかんで、おるときにボタ ンをおしてやりたいです。つぎは まどについてしらべたいです。	そのもつやつをもつて、ゆれた けどこけませんでした。あんせん のためにあるんだなとわかりまし た。	ぼくはバスにのったときに、す わることがなくて、もつところ があつたのでそれをつかみまし た。

バス		
感想	前より分かったこと	自分の体験
バスに人がいっぱいのれるのが わかったし、下のほうにスーツケ ースとかベビーカーとか大きな もつをいれられることがわかりま した。つぎは、タイヤのことをし らべてみたいです。	まえよりわかったことは、下の ほうに大きなもつをいれられ て、すわる人のじやまになるもの をいれて、人がいっぱいのれるこ とがわかりました。	ぼくはバスにのったとき、まど が大きくてけしきがよくみえた し、ぎせきのところがひろくつく つてあることがわかりました。

(2) 児童の評価

「十分満足できる」状況 (A)

4人 (14%)

「おおむね満足できる」状況 (B)

17人 (66%)

「努力を要する」状況 (C)

6人 (20%)

8 成果と課題

(1) 成果

初発の感想を交流したり、紹介したりすることで、自動車についてもっと知りたいことや、その後の学習活動の流れを児童と共に考えたり、計画を立てたりすることができた。また、図書室利用の時間を使って頻繁に図書室へ行って関連図書を探したり、教室で読んだりすることで、自動車について興味・関心を持ち続けて学習活動を行うことができた。

ワークシートについては、本時では①「仕事」と「つくり」②「自分の体験」③「前より分かったこと」④「感想」の枠を分けることで、文書を書くことに抵抗がある児童も少しずつ取り組むことができ、短い文でも自分の言葉で書き表すことができた。

(2) 課題

本時では、「自分の体験」について記述する必要があることから、自動車を選ぶ際の基準として見たり乗ったりしたことがある自動車を選ぶようにしたが、「見かけた」だけで、体験したことを記述するまでに情報が足りない自動車を選ぶ児童が多かった。例えば「郵便車」や「大型トラック」など、道路で何気なく見かけているものの、詳しく見たり考えたりしたことはなく、体験として記述する際に、思い出すことが難しいといったことがあった。その場合は画像で調べたり、本で調べたりすることはできたが、「体験」したこととして記述することが難しかった。

また、「仕事」に関連しないことについて「自分の体験」を記述している児童も多かった。例えば、「トラックには窓を開けるための回すレバーがあるのを見た」ということについて記述しており、トラックの「重いものを運ぶ仕事」とは関連のない記述があった。

これらのことについて考えられる手立てとして、本時の活動に入る前に、それぞれの自動車について体験したことを書き出させ、その中から自動車の「仕事」につながるものを見付けさせる。その際に、「仕事」につながっていない例を挙げ、話し合う活動なども設けたい。例えば、「『重いものを吊り上げる仕事をしているクレーン車』には、『タイヤが4本あった』」ということである。そして話し合ったことを基に、自分の「体験」は、その自動車の「仕事」につながる「体験」となっているのかを再度見直す時間を設けることが考えられる。

(3) 今後に向けて

国語科だけでなく、授業の最後に振り返りをする時間を取っているため、その際に「自分の体験」としてその時間の活動について考えたことや分かったことなどを文章に書き表したり、経験と結びつけて感想をもったりする経験を積み重ねさせていきたい。

付録 選書リスト

書名	著者名	出版社名
はたらくじどう車スーパーずかん① 町や人をまもる じどう車① しょうぼう車	小賀野 実 (監修・写真)	ポプラ社
はたらくじどう車スーパーずかん② 町や人をまもる じどう車② パトロールカー きゅうきゅう車	小賀野 実 (監修・写真)	ポプラ社
はたらくじどう車スーパーずかん③ こうじげんばではたらく じどう車 ブルドーザー パワーショベル	小賀野 実 (監修・写真)	ポプラ社
はたらくじどう車スーパーずかん④ 人やものをはこぶ じどう車 バス トラック	小賀野 実 (監修・写真)	ポプラ社
はたらくじどう車スーパーずかん⑤ くらしをささえる じどう車 せいそう車 いどうとしょかん車	小賀野 実 (監修・写真)	ポプラ社
くらべてみよう！はたらくじどう車 1 しょうぼう車	市瀬 義雄 (監修・写真)	金の星社
くらべてみよう！はたらくじどう車 2 パトロールカー・きゅうきゅう車	市瀬 義雄 (監修・写真)	金の星社
くらべてみよう！はたらくじどう車 3 ブルドーザー・パワーショベル	市瀬 義雄 (監修・写真)	金の星社
くらべてみよう！はたらくじどう車 4 バス・トラック	市瀬 義雄 (監修・写真)	金の星社
くらべてみよう！はたらくじどう車 5 せいそう車・じよせつ車	市瀬 義雄 (監修・写真)	金の星社